

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100101		
法人名	有限会社 介護センターみつわ		
事業所名	グループホームみつわ		
所在地	三重県南牟婁郡御浜町志原1698-50		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 26 日	評価結果市町提出日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2473100101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2473100101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 2 月 19 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみつわが「家庭の延長線上にある」と考えており、アットホームで居心地の良い生活をできるように心がけております。  
理念でもある「笑顔・ふれあい・思いやり」を忘れずに、常に利用者の意見・気持ちを尊重しながら、あたたかい心のケア・その人らしい生活が送れるよう支援していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑に囲まれた静かなところにホームは立地している。敷地は600坪あり、グループホームの建物周りには花壇や畑があり、四季折々の花や野菜の栽培や収穫を楽しめるようにしている。毎年、畑で獲れた芋の焼き芋大会をしたり、取れたての野菜を給食で使ったりして、自然に親しむ生活を大切にしている。入居者の気持ちを思いやり、ケアをしていくことを最も大切にしており、管理者は常に「入居者の目線に立つこと」、「入居者の話をじっくり聞くこと」の大切さを朝礼や職員会議の場で話している。地域や入居者家族と今まで以上に連携し、入居者の生活を支援したいと考えている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・ふれあい・思いやり」を理念とし、朝礼時・月1度のカンファレンスに再確認し、ケア実践に取り組んでいる	6年ほど前に理念をわかりやすくするために、職員全員で考え短い標語とした。朝礼では毎日全員で理念を唱和し、ケアする基本姿勢を確認して業務に入るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で家族以外の訪問は極力お断りしていたため、地域とのかかわりは少なめでした。	地域との関係を築くために管理者は、自治会の役員となり、町広報の配達や清掃活動に積極的に参加している。夏には地区や社協の協力のもと、夏祭りを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の施設という事は近隣の方も理解していただけるようになってきた。園内を散歩している時等、気さくに声をかけてくれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 地域包括支援センター職員・役場職員・民生委員・老人会メンバー・近くの交番の方が参加で開催し、様々な意見・助言を参考にしながら、サービス向上に取り組んでいる。	認知症やグループホームの理解と周知のため、地域の様々な機関に運営推進会議への参加を呼びかけ、実施している。ホーム運営への前向きな意見もあり貴重な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してくれている担当者との連携を中心に協力関係を築いている。	役場主催の研修会等には積極的に参加している。機会あるごとにグループホームについて説明し、協力関係を築くよう努めている。また、生活保護者の支援について協力し、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社内で毎月 職員研修を行い、理解を深め「身体拘束をしないケア」に努めている。	身体拘束に関する研修は、毎月実施している職員会議で職員が作成した資料に基づいて行っている。また、日々のケアの中でのスピーチロックには留意している。玄関は日中施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会時に意見を出し合い、職員全員意識高く虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を基に勉強会等で学ぶ時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に十分説明してから同意書に署名・押印していただいている。 不安・疑問点を確認し、説明を行えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に利用者の近況を毎月手紙にて報告している。質問等は面会時や電話対応時に担当者が対応している。要望・意見は申し送り時に報告し職員全員把握している。	家族には毎月、状況報告のために手紙を出している。また、定期的に電話もして意見を聴取することに努めているが、家族と連携した利用者支援を構築するため一層の連携を考えている。	家族と連携した処遇ができるように、今まで以上に家族とコミュニケーションを取り、入居者ニーズを家族と共有していくことを築くことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月のカンファレンスで職員の意見を聞いている。職員が毎回テーマを決め、勉強会を開いている。	朝礼や毎月の職員会議では、職員からの意見は積極的に採用するよう努めている。それ以外の場面でも職員の意見には耳を傾け、入居者の処遇改善と働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員を把握し、得意分野を活かし、苦手な分野はフォローしながら改善できるよう助言しあいながらお互いの協力関係を築けるよう、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部の研修は少なかったため、会社での研修がメインとなった。研修の案内が来た時は職員に知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等がある時は、参加時に同業者との交流が多いので、お互い情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者へのアセスメントを確実にし、話を傾聴し、安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、不安点・要望等を確認し、計画書の作成に反映している。面会時・電話対応時にも職員と話しやすく相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話をよく聞きながらニーズを見極め対応できるよう職員は意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちに寄り添い、一方的な働きかけではなく、思いを気軽に話していただけるような関係を築けるよう意識している。できる事は利用者と一緒にするよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者個々の担当職員から家族に生活状況等の近況報告を手紙で行っている。気になる場合は電話連絡で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は友人の面会も少なかった。外出の機会も少ないので、友人との電話の取次ぎや思い出話を職員がひきだしゆっくり話を聞く等の対応になった。	現状の職員体制では馴染みの場所等に出かける支援を十分に行うことが難しいため、家族にも協力依頼している。コロナ禍前は、知人が気楽に来訪できるよう開放的にして、関係が途切れないようにしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理な働きかけはせず、本人の気持ちを尊重しながら、レクリエーション・行事等、日々の生活を通し利用者同士が関われる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事等あればいつでも連絡していただけるよう、退所時に家族に声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しをよく聞き把握し、支援に反映するよう努めている。カンファレンス等の話し合いの場で情報を職員間で共有している。	現在の入居者のほとんどの方が言葉による意思表示が可能のため、ゆっくりと目線を合わせて話を聞き、その思いを共感するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の話をよく聞き作成したアセスメントを通し職員全員が把握している。入所前のケアマネジャーのアセスメントや介護認定の訪問調査の資料も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子・状態・変化等を正確に記録し申し送り、個々の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を確認しながら、計画作成担当者・正担当・副担当を中心に計画書を作成している。モニタリング会議・カンファレンス時に意見交換にてケアの見直しを行っている。	二人の担当者と計画作成担当者が中心となり、本人や家族からの意向を確かめ、計画を作成し、職員会議の場で全員で検討し確認している。モニタリングも担当者が中心となり実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者個別の状態を記録し、職員全員が把握している。職員間で共有・情報交換することでより良いケアができるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急入院時等、遠方の家族が急に駆けつけられない時は、必要に応じて対応する等、可能な限り柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はボランティアの方に利用者と関わってもらう機会が作れなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回 医師が往診してくれている。本人・家族の希望で専門医を受診する場合もある。	協力医の往診の際は、担当者が作ったバイタルチェック表等を使って状況を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。外来にて受診する際には原則家族が同行するが、ホームから近況資料を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在 訪問看護を利用している利用者はいないが、利用していた時は気軽に相談できるような関係を築いていた。往診の医師・看護師との連携はとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室のスタッフと入院・退院時の受入等、随時 情報交換・相談できるよう努めている。病院スタッフによる研修も依頼し、当ホームで開催した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期までここで生活させてほしいという家族もおられるので、重度化にむけた支援については随時対応していきたい。	看取りを希望される家族の方もおり、また、その経験もあるが医療との連携が十分でないためすべての方の看取りができていない。看取りを希望するすべての方に、医療と連携し、指針に基づいたターミナルケアができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成。AEDの設置。年数回 消防署職員の指導の下、救急法の訓練を全員参加で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し 避難訓練を行い、避難マニュアルにより利用者を誘導する訓練を行っている。(夜間を想定しての訓練も同時に行う)	年に4回避難誘導訓練を実施し、そのうち1回は夜間を想定したものとなっている。また、町主催の防災訓練にも参加して、地域との連携も模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格等を見極め、職員間で話し合いながら、声かけや対応に十分注意している。	呼称については、苗字にさん付けで呼ぶことを基本としている。また、居間や食堂に居る入居者にトイレ誘導する際には、周囲に気づかれないように配慮して声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の返答能力に応じた質問方法等で、思いや希望を聞き出すよう心掛けている。時には居室に訪問し、1対1で話を聞くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、気分・体調等を考慮しつつ様子を見ながら希望に沿った支援をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は助言しながら自分で選んでもらい、カットは3か月に1度美容師さんが来てくれるので、本人が希望する場合はカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを手伝ってもらったり、畑の野菜と一緒に収穫し、メニューの材料に加えて楽しんでもらう。後片付けも一緒に行える方はしてもらっている。オープンランチ・鍋大会等季節に応じたメニューも考えている。	敷地内の畑で栽培した野菜を食材として使ったり、メニューも入居者の嗜好を多く取り入れて食事が楽しいものとなるよう努めている。また、天気の良い日には、庭で食事することもあり、食事を楽しむことができるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態・量を把握し、食事・水分摂取記録も作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔ケアチェック表を作成し、毎食後声かけにて行ってもらい、できない人は介助しながら口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。おむつの利用者もいるが、できるだけ排泄はトイレで行えるよう支援している。	日中は排泄表や入居者の様子を観察しつつ、静かに声掛け・トイレに誘導している。夜間は、ナースコールでの呼び出しや起きる気配を察知して安全なトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄記録を確認し、水分をこまめに摂っていただいたり、適度な運動をする等支援している。便秘が続く場合は、医師の指示のもと服薬によりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴時間は幅を持たせてなるべく好きな時間帯に入浴できるよう支援している。拒否・便汚染等があった場合は、臨機応変に対応している。	毎日、午前中に行い、3名～4名の方が入浴されている。拒否される方には無理強いせず、翌日に変更するなど、柔軟に対応している。入居者の重度化により、クレーンも設置して安全な入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣も聞き取りにより把握しており、状況に応じて対応するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員把握している。薬剤師との連携も取れており、いつでも相談できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、できる事等も見極め、職員と一緒に楽しんで生活していただけるよう支援している。できる事を増やす事も目標にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	園内を職員と一緒に散歩したり、畑の野菜を収穫して楽しんでもらっている。家族の協力を得て外出機会も作っている。	敷地が広く、花壇や畑それに遊歩道もあり、敷地内を散歩することを日課としている。四季折々の花や野菜の成長を眺め、また、収穫期には、一緒に取り入れ作業をしたりと自然な生活を送ることを大切にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理している。個々の能力に応じ、家族の同意のもと本人が少額所持している方もいる。通院時に売店等で買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己の携帯にて連絡をとっている利用者もいる。今年度は、面会より電話がかかってくる人が多いので、その都度 利用者にとりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせた飾りつけや利用者の作品を展示している。	掃除が行き届いており、大変清潔で、日当たりもよく、冬場でもぽかぽか陽気の居間兼食堂である。入居者は、思い思いの場所で椅子やソファに腰掛け、ゆったりと過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、共同空間で過ごされる方が多いので、ソファや椅子の配置に気を配りながら過ごしやすい居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使い慣れた物を持ってきていただくようお願いしている。ご家族の遺影を持ってきている利用者もおられたが、特に制限せず、できる限り好きなものを持ってきてもらっている。	居室は、夜間寝るために使うだけの人が多いが、タンスやベットは動線を意識して配置されていた。カーテンは、好みのものを取り付け、明るい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置・段差をなくす等、個々の身体能力にあわせ職員間で意見を出し合い、注意・工夫している。トイレの位置等もわかりやすいよう張り紙を貼る工夫をしている。		